

更なるダンピング対策の方針（案）

1. 入札・契約段階

(1) 企業の技術力を重視した入札参加要件の設定等

[課 題]

現行の一般競争入札方式では、不良・不適格業者の競争への参入を外形的に排除することは困難。

[検討項目]

特に、難易度の高い工事については、高い技術力評価を受けた企業や高い能力を有する技術者を擁する企業のみを競争に参加させる制度等、企業の技術力を一層重視・評価し活用する仕組みを検討。

(2) 工事实績要件の緩和（例えば、10年 15年）

[課 題]

公共事業費の削減に伴い工事発注件数が減少し、企業が施工実績を得る機会が減少しているため、実績取得を目的した低入札受注が発生。

[検討項目]

低入札の動機（実績取得）を減ずるため、工事实績の対象期間の延長と延長方法について検討。

(3) 入札ボンドの試行導入と検証

[課 題]

現行の一般競争入札方式では、不良・不適格業者の競争への参入を外形的に排除することは困難。

[検討項目]

入札保証制度の運用変更、いわゆる入札ボンドの試行導入により、与信枠という形で市場原理を活用し財務能力の劣る企業等の参入排除を行うとともに、対象工事の拡大について、試行結果を踏まえつつ検討。

(4) 低入札価格調査における失格要件の具体化の検討

[課 題]

直轄工事においては、会計法に基づき低入札価格調査制度を設けており、地方公共団体で設けている最低制限価格は設けていない（会計法上で規定されていない）。このため、案件毎に低入札価格調査を実施し、総合的に適否を判断しているものの、結果として、失格となるケースは少ない。

[検討項目]

統計的・客観的なデータに基づき、低入札調査価格制度における失格要件の具体化を検討。

(5) 総合評価方式の充実

技術力競争の充実

[課 題]

現行の総合評価方式においては、技術評価点に比べ、価格点の影響が大きい(評価値が価格で決しやすい)。

[検討項目]

技術評価点の上限を引き上げる等、総合評価方式における技術力評価の拡大を検討。

新たな評価項目の追加

- ・工事費内訳書に基づき、施工体制を評価
- ・元下仮契約書や品質確保方法を確認する資料の提出を評価

[課 題]

低入札による下請へのしわ寄せは、手抜き工事や施工ミス、安全対策の不徹底等、工事の品質低下につながる懸念。

[検討項目]

元請企業の総合評価に際し、技術提案の評価の前提として工事費内訳書や元下仮契約書、品質確保方法の確認資料の提出を求め、品質確保の観点から、申込み価格のコスト構造や下請企業との関係、品質確保の方法を評価する手法を検討。

2 . 施工段階

(1) 支払制度の見直し

- ・前払金の縮減比率の拡大
- ・出来高部分払方式の活用拡大

[課 題]

前払金を目的とした低入札が懸念される。

[検討項目]

前払金を目的とした低入札を抑制するため、低入札の場合における前払金の更なる縮減と出来高部分払の拡大等、受注状況に応じた支払制度を検討。

(2) 施工プロセスを通じた検査

- ・Gメン、抜き打ちチェック
- ・第三者立会による専門技術検査

[課 題]

受注者との信頼関係や発注者の体制を前提とした従来の限定的な監督・検査では、設計ミスや施工不良等への対応が困難。

[検討項目]

施工プロセスを通じた検査への転換及び検査手法について検討。
(例えば、橋梁の寿命等に重大な影響を及ぼす溶接部等を対象)

3 . 工事完了後

(1) 瑕疵担保期間の延長(例えば、2年 10年)

[課 題]

低入札の有無にかかわらず、瑕疵担保期間については、一律2年で運用。

[検討項目]

粗雑工事等の実態を踏まえつつ、期間の延長を検討。

更なるダンピング対策の方針（案）

